

こっこめ通信 07 2010

「湿気には負けない」号



八丈島ではアカッコのことを親しみを込めて「こっこめ」とよびます。

6月14日ようやく島も梅雨入りとなりました。6月上旬はカラッとした晴天が続きましたが、北東の風が吹き、少し肌寒さすら感じる日もありました。ところが梅雨入り後は一転、南西の風になり、霧に包まれ、ジメジメした毎日が続いています。湿度は90%以上で除湿器がフル回転！飛行場付近は、さらに深い霧に包まれ、視界不良で飛行機の欠航が相次いでいます。定期船は順調なので、のんびり船旅はいかがでしょう？

さて、今回は、「ヒカリモノ イン ハチジョウジマ」「八丈島のハサミムシ (2010.7.17 一部訂正)」のお話です。

ヒカリモノ / イン ハチジョウジマ



ヤコウタケ



シイノトモシビタケ



ニッポンヒラタキノコバエ

ここ数年、八丈島ではヒカリモノをプッシュしています。ヒカリモノと言っても食べるものではなく発光する生きものたちです。

島のヒカリモノの代表は「光るキノコ」。ジメジメが大好きなキノコたちは、梅雨入りしてから本領を発揮。鴨川林道のシイノトモシビタケやギンガタケ（仮称）もたくさん出てきているということです。また、今年は「NPO 法人八丈島観光レクリエーション研究会」の方が公園内にヤコウタケやエナシラッシタケなどの光るキノコの見られる場所を整備し、観察会が開催されます。

虫のヒカリモノはやっぱりホタル？島には元々いませんでしたが、1924年以降に何度か放虫され、今では5月上旬から7月頃まで見るができます。ホタル以外ではニッポンヒラタキノコバエの幼虫が青い光を発し、夏になるとビロウヤシに付くアイアナタケという菌類上で発光した姿が見られます。

海にも光る生きものはいます。ウミホタルやヤコウチュウはもちろん、ベッコウヒカリウミウシやエダウミウシなど発光するウミウシも見るができます。あまり知られていませんが潮だまりでよく見られるヨコスジタマキビモドキも発光します。

昨年は光るゴカイが発見され、光るミミズも探せば出てくるでしょう！

ヒカリモノ天国の八丈島へ おじゃりやれ！



エナシラッシタケ



ヘイケボタル



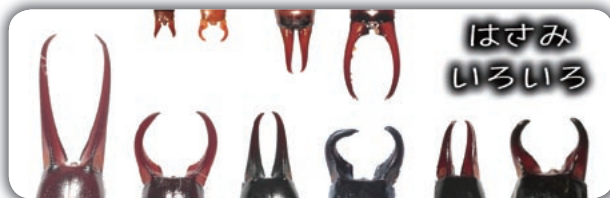
ベッコウヒカリウミウシ

「アカッコ」は日本固有のツグミ科の鳥で、国の天然記念物に指定されています。八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

八丈島のハサミムシ

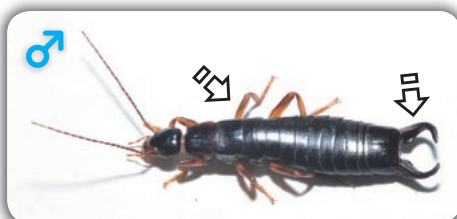
ハサミムシは、お尻にクワガタの顎のようなハサミがあり、種や雌雄によって形が違います。このハサミは、敵からの防御や攻撃、捕食などに利用されています。ハサミムシを捕まえようとして、ハサミを立て威嚇された経験のある人もいると思います。ハサミムシは夜間に活動する種が多く、日中は石の下や倒木の樹皮下に隠れています。また、母虫には卵や幼虫の世をする子煩悩な面もみられます。

そこで八丈島にはいったい何種類のハサミムシが見られるのか調べてみました。今年は天候不順で、虫の発生が遅く、数も少ないので、もう少し調べ続けると今回調査した以上の種がでてくるかもしれません。



八丈島で記録されているハサミムシ（黒塗りは今回確認できた種）

ハサミムシ目 Dermaptera	ハサミムシ科 Anisolabididae	ハサミムシ亜科 Anisolabidinae	ヒゲジロハサミムシ	<i>Anisolabella marginalis</i> (Dohrn, 1864)
			ハマベハサミムシ	<i>Anisolabis maritima</i> (Bonelli, 1832)
			コバネハサミムシ	<i>Euborellia plebeja</i> (Dohrn, 1863)
			コヒゲジロハサミムシ	<i>Euborellia annulipes</i> (Lucas, 1847)
	オオハサミムシ科 Labiduridae	オオハサミムシ亜科 Labidurinae	オオハサミムシ	<i>Labidura riparia</i> (Pallas, 1773)
	クロハサミムシ科 Spongiphoridae	チビハサミムシ亜科 Labiinae	チビハサミムシ	<i>Paralabellula curvicauda</i> (Motschulsky, 1863)
	クギヌキハサミムシ科 Forficulidae	クギヌキハサミムシ亜科 Forficulinae	ミナミクギヌキハサミムシ	<i>Forficula hiromasai</i> Nishikawa, 1970



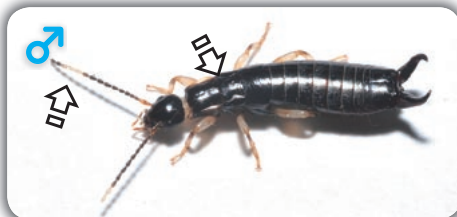
ハマベハサミムシ

大きさは18～35mm、体は黒く、各肢は黄褐色、オスのハサミは不对称です。島の中では海岸から内陸の石の下など湿った場所で見られ、6～7月頃になると家の中に入り込むこともあります。



ヒゲジロハサミムシ

大きさは18～30mm、体は黒く、翅はありません。触角に白い部分があり、各肢の付け根が褐色です。島の中では、朽ち木や石の下などで普通に見られます。



コバネハサミムシ（キアシハサミムシ）

大きさは10～15mm、体は黒く、各肢は黄褐色で、付け根近くが褐色となるものが多い。触角に白い部分があり、中胸背板の両側に鱗片状の前翅があります。島では海岸付近の石の下(土の上にある)などで見られます。



チビハサミムシ

大きさは5mm前後の小型のハサミムシ。樹皮下に生息しているため、体が平たくなっています。島では倒木（菌類が付いているようなもの）の樹皮下で見られます。



ミナミクギヌキハサミムシ

大きさは10～17mm、体・頭部は赤褐色で、後翅がありません。ハサミの付け根に出っ張り（尾節）が見えます。島では葉と葉の間に隠れていたり、花の周辺でも見られます。

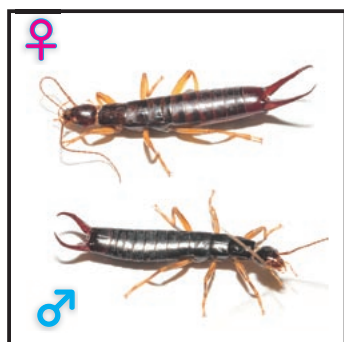
八丈植物公園季節調査会の報告

八丈ビジターセンターでは、毎月第二日曜日に、植物公園の生きもので季節を感じようという趣旨で、「八丈植物公園季節調査会」を開催しています。毎回見られる植物がどのように変化していくか、また、どんな鳥や植物が見られるかも観察しています。今回は6月13日(13時30分～15時)に行いました。

八丈植物公園季節調査(平成22年第6回) 参加者・黒田, 沖山, 茂手木, 金田, VC 菊池

NO.	和名 (島名)	状態	NO.	和名 (島名)	状態	NO.	和名 (島名)	状態
草本			36	ドクダミ	花	20	モッコク	蕾
1	アオスゲ	実	37	ナギナタガヤ	花と実	21	ヤブニッケイ	花、今年は多い
2	アオツラフジ	蕾	38	ナンゴクネジバナ	花	シダ植物		
3	アオノクマタケラン	花、盛り	39	ニワゼキショウ	花と実			
4	アシタバ	花	40	ヌカススキ	実	1	ウチワゴケ	
5	アメリカスズメノヒエ	花	41	ヌカボ	実	2	オオイタチシダ	
6	イワニガナ	花	42	ハキダメギク	花	3	オオタニワタリ	胞子が熟す
7	ウスベニチチコグサ	花と実	43	ハナイバナ	花	4	オクマワラビ	
8	ウスベニニガナ	花と実	44	ハナヌカススキ	実	5	オニヤブソテツ	
9	オオアレチノギク	花	45	ハハコグサ	花と実	6	カニクサ	栄養葉
10	オオトキワツユクサ	花	46	ヒナギキョウ	花と実	7	コハナヤスリ	
11	オオニワゼキショウ	花と実	47	ヒメヌカボ	実	8	タチクラマゴケ	胞子葉
12	オオバコ	実	48	ヒメコバンソウ	実	9	タチシノブ	
13	オニタビラコ	花と実	49	ヘラバヒメジョオン	花、盛り	10	タマシダ	
14	カタバミ	花と実	50	ムラサキカタバミ	花	11	ナチシケシダ	
15	カモジグサ	実	木本			12	ノキシノブ	
16	キランソウ	花	1	アカメガシワ	花	13	ハカタシダ	
17	ケキツネノボタン	花と実	2	イヌビワ	実	14	ハチジョウカナワラビ	
18	コシロノセンダングサ	花と実	3	エノキ	実	15	ハチジョウシダ	
19	コナスビ	花	4	オオシマザクラ	熟した実	16	ヒトツバ	獅子葉
20	コマツヨイグサ	花と実	5	オオバヤシャブシ	実	17	ホシダ	
21	コモチマンネングサ	花	6	オオムラサキシキブ	花	18	ホラシノブ	新葉が目立つ
22	シチトウスミレ	実	7	ガクアジサイ	花	19	マツバラン	
23	シマウチワドコロ	花	8	カジイチゴ	花と実	20	マメツタ	
24	シマササバラ	花	9	センダン	若い実	21	ミゾシダ	新葉が目立つ
25	シロツメクサ	花	10	タブノキ	実	22	ヤマイトチシダ	
26	シロバナマンテマ	花と実	11	テイカカズラ	花	23	ワラビ	
27	セイヨウタンポポ	花と実	12	トベラ	実	今回はシダ植物 23 種を含む、94 種の植物を観察しましたが、ヤマモモの実が見られなかったのが不思議でした。		
28	タチスズメノヒエ	花と実	13	ハチジョウイボタ	花			
29	チガヤ	実	14	ハチジョウキブシ	実			
30	チチコグサ	実	15	ヒサカキ	実			
31	チチコグサモドキ	実	16	ヒメユズリハ	若い実			
32	ツメクサ	花と実	17	ホルトノキ	蕾			
33	テリハノブドウ	蕾	18	マサキ	蕾			
34	トウバナ	実	19	マンリョウ	花			
35	トキワハゼ	花と実						

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、これまで八丈島から記録のなかった「イソハサミムシ」にスポットを当ててみたいと思います。



イソハサミムシ

Anisolabis seiroides

ハサミムシ科のハサミムシで、最近新種として日本と韓国から記載された種です。大きさは17～50mm、ハマベハサミムシよりも大きなハサミムシです。海岸の岩礁の割れ目など、海水に近い場所にも生息しています。島には、体が赤褐色のタイプと黒褐色のタイプがいます。

大湊浦やヤケンガ浜など島の西側の海岸で確認することができました。

2010 八丈ビジターセンター 7 プログラムカレンダー

日付の下に書かれている時刻は、八丈島（神湊）の潮の満ち引きの時刻です。
左側が満潮時刻、右側が干潮時刻です。また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
	 この色の日は 特別行事があります			1	2	3 ガイドウォーク
4 ガイドウォーク	5	6	小暑 7	8	9	10 ガイドウォーク
09:35 03:54 22:04 15:26	11:01 05:01 22:46 16:11	12:58 06:13 23:39 17:17	14:42 07:20 18:55	00:44 08:18 15:49 20:30	01:48 09:09 16:37 21:35	02:45 09:56 17:18 22:24
11 ガイドウォーク 植物公園 季節調査会	● 12	13	14	15	16	17 ガイドウォーク
03:37 10:42 17:56 23:06	04:27 11:26 18:32 23:47	05:17 12:09 19:07	06:07 00:28 19:40 12:51	06:58 01:11 20:11 13:31	07:52 01:57 20:40 14:10	08:51 02:48 21:09 14:48
18 ガイドウォーク 夏休み特別行事 「夜の昆虫観察会」	19 ガイドウォーク	20	21	22	大暑 23	24 ガイドウォーク 八丈学講座 「川の生きもの観察会」
10:04 03:46 21:40 15:25	11:46 04:56 22:19 16:06	14:03 06:16 23:16 17:12	15:39 07:34 19:17	00:39 08:37 16:25 20:59	01:59 09:27 16:57 21:53	02:58 10:08 17:25 22:32
25 ガイドウォーク	○ 26	27	28	29	30	31 ガイドウォーク
03:46 10:45 17:51 23:03	04:27 11:18 18:15 23:33	05:04 11:50 18:38	05:41 00:02 19:00 12:19	06:17 00:33 19:22 12:48	06:54 01:05 19:44 13:16	07:33 01:40 20:07 13:43

イベントプログラム

植物公園季節調査会

植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化と一緒に感じましょう！
7/11（13:30～ 約1時間半） 中学生以上
ビジターセンター集合・解散 無料 定員：15名

夏休み特別行事 「夜の昆虫観察会」

恒例の夜の昆虫観察会！植物公園内で夜に活動する昆虫を探して観察します。7月になれば虫も出てくるはず！
7/18（19:30～ 約1時間半） 小学生以上（低学年は保護者同伴）
ビジターセンター集合・解散 参加費：50円 定員：20名

八丈学講座 「川の生きもの観察会」

毎月行っている八丈学講座。今月も7月は、鴨川周辺で甲殻類や魚など、川の生きものを探して観察します。
7/24（13:30～ 約1時間半） 中学生以上
鴨川ホテル水路集合・解散 参加費：50円 定員：15名

ビデオプログラム

10:00～ 八丈・海・生きものたち
11:00～ おじゃりやれ 八丈島
14:00～ おじゃりやれ 八丈島
15:00～ おじゃりやれ 八丈島
16:00～ 八丈・海・生きものたち
上記以外での上映は予約にて可能です

東京都八丈ビジターセンター 2010.7.1 第110号

開館時間 9:00～16:45 年中無休（入場無料）
〒100-1401
東京都八丈島八丈町大賀郷2843
電話：04996-2-4811 Fax：04996-2-4888

編集後記

「NPO法人八丈島観光レクリエーション研究会」によって植物公園内に整備された光るキノコ観察地ができ、ボランティアガイドによる観察会も開催されます。光るキノコを見に来るだけでも島に来る価値はありますよ！もちろんそれ以外も楽しいです！（高）